

「加古川中央市民病院産科外来における 最適な母乳育児支援のための妊婦との薬剤師面談の 取組みの現状調査」について

加古川中央市民病院薬剤部では、現在、産科外来を受診されている患者さんを対象に下記の研究を実施しております。

尚、この研究についてご質問がございましたら、最後に記しております【問い合わせ窓口】まで連絡ください。

【研究概要及び利用目的】

厚生労働省では2005年10月より、国立成育医療研究センターに妊娠と薬情報センターを設置し、医薬品が胎児・乳児へ与える影響などについて妊婦・授乳婦の相談に応じる業務を実施しています。このように、薬剤師が外来で妊娠と薬に関する相談を受けたり、また関係する医療スタッフに適切な薬剤情報を提供することは、疾患をもつ妊婦やこれから妊娠を希望する人、患者の妊娠から産後をサポートする医療者にとって有用であると考えられます。

当院産科外来において2020年2月より薬剤師が必要に応じて患者と面談を行い、内服薬と授乳に関する情報を関係する当院のスタッフに対し提供する業務を開始しています。

面談において相談があった薬剤の種類や、薬剤師から医療者に提供された情報、その後の母乳育児の状況などの情報を集約することは、薬剤師が適切な情報提供により母乳育児を支援できたのかを把握することに繋がります。これにより、各薬剤に対する薬剤師の情報提供が十分であったか、またその結果として適切な母乳育児を支援できていたかがわかれば、今後の改善点を見つけたり、業務内容の向上やより適切な情報提供及び母乳育児支援につながります。

よって、面談で対応した患者さんの情報を集積し、薬剤師による情報提供が不十分であったために適切な母乳育児を支援できなかった事例がなかったかを把握し、現状を検討することを目的とします。

【研究期間】

研究期間：院長承認日～2022年1月30日

【取り扱うデータおよび試料・情報の項目】

2020年2月から2021年6月30日の期間に、当院産科外来において薬剤師面談を受けた患者さんの下記のデータを診療録より収集いたします。

- 年齢、妊娠週数、併存疾患、妊娠出産歴、出産週数
- 薬剤師が面談の対象とした薬剤の情報、授乳と薬に関して薬剤師より提供された情報
- 医師の判断の内容（授乳の可否）
- 分娩後の母乳育児の有無、分娩後の内服継続の有無

[個人情報保護の方法]

研究期間中、患者さんの個人情報に厳重に守られるようにして研究は進められます。患者さんのカルテより収集した資料（データ）は期間中、対応表を用い匿名化した状態で第三者が閲覧できないように鍵のかかる保管庫で保存します。

[データおよび試料提供による利益・不利益]

この研究では、通常の診療とは別に、患者さんに新たに医療行為を行うことはありません。そのため、この臨床研究への参加による直接的な利益や不利益はありません。

また、通常診療の情報を用いており、患者さん個人には特に利益や不利益になることはありません。しかし、本研究を通じて社会全体の医療水準の向上に貢献できる可能性があります。

[登録終了後のデータおよび試薬の取り扱いについて]

この研究で取得した患者情報は、本研究の終了報告から5年を経過した日または本研究の結果の最終の公表について報告された日から3年を経過したいずれか遅い日までの期間保管いたします。

また、患者さんが本研究への参加取りやめを申し出た際には、その時点で本研究に関わる情報は破棄します。

[研究成果の公表について]

この研究の成果は、関連学会への発表等で公に発表します。その場合もあなたの個人情報は厳密に守られ第三者にわからないようにしています。

[研究へのデータ使用の取りやめについて]

いつでも可能です。患者さんのデータを用いたくない場合には、下記[問い合わせ窓口]までご連絡ください。取りやめの希望を受けた場合、それ以降、患者さんのデータは本研究に用いることはありません。

しかしながら同意を取り消した時、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合には破棄できません。

[問い合わせ窓口]

この研究の問い合わせだけでなく、患者さんのデータが本研究に用いられているかどうかを知りたい場合や、患者さんのデータの使用を望まれない場合など、この研究に関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせください。

加古川中央市民病院 薬剤部
田中 優希
連絡先：079-451-5500